

## ドクターNAKAMURAの 健康道場



### Vol.35 本人も必死、 家族も必死

「いい加減にしろ！俺が会社でどんなみじめな扱いを受けているかお前は分かっているのか。病気になる前は仕事に行き詰れば皆相談に来ていた。山部さん、これが上手くいかないんですが何かいいアイデアないですか？って。ところが、今はどうだ。皆、腫物を触るみたいに、遠巻きに俺に話しかけてくる。そりゃそうだよ。高次機能障害ってやつだ。同時に二つ以上のことができなくなってるんだから。頭の中の思考が繋がらないんだから仕方ないじゃないか。自棄になって酒の量が増えたっていいじゃないか。困ったときは助け合うのが夫婦じゃないか、普通は私も頑張るからあなたも頑張るといのが夫婦じゃないか。それを、世間様と一緒に俺を攻め立てる。俺だって苦しんだよ。もがいてるんだよ。でも、どうしようもないじゃないか病気なんだから。」

「・・・」

脳梗塞を起こし社会復帰をしたものの、目に見えぬ後遺症のために仕事に制限がかかりストレスを抱えてしまった山部聡、52歳。開発部長というプライドがことごとくなぎ倒され酒に逃げ道を求める毎日が続く。一方で、心配だから立ち直ってほしい、自分の愛した夫はこんな穀つぶしじゃないと願う妻・友子。心配するがゆえに小言もでてくる。

テーブルを挟んで険悪な空気が漂う中、愛娘の佳奈が間を取り持つ。

「お父さんもお母さんもお願いだから仲良くしてよ。そんな二人は見たくない！」

「・・・・・・・・」

「・・・・・・・・」

みんな必死なのだ。生きていくのも必死。家族を思うのも必死。そして家族という生命共同体を守るのも必死。必死だからこそつい愚痴もでる。昨日、「健康道場」という広告を見た。なんでも生活習慣を正したくても正せない同志が集い、心を正すところがあるらしい。このままでは何もかもが壊れてしまうから、立ち直るきっかけが欲しいから、明日訪ねてみよう。—健康道場—

そよかぜ 循環器内科・糖尿病内科  
(県立中央病院 前)

院長 中村陽一